



Anke Loh  
アンケ・ロー

アントワープ王立アカデミー出身者がバリに進出する際、ほとんどがボンビドゥー・センターやバステューユ近辺の小さなギャラリーを借りきって一種の展覧会のようにしてコレクションを並べて見せる。服を見せるというより作品をタブローのように展示するというふうだ。しかしアンケ・ローは少し違い、オルセー美術館近くのブルジョワ風な建物の玄関口にミニコレクションを並べていた。針金のハンガーにつるした4、5点の白い服が壁に並べられ、昼の光を発するプロジェクターによって照明されていた。これらの素材は昼の光、つまり太陽の光によって色が変わる化学薬品、テルモクロムが使われているからだ。太陽が当たると紫色に変わる白い服。ほかには白いコットンに、ある化学薬品を加えて水泡のようにでこぼこした表面を見せるものも。いずれも紙のような素材で独特だ。これらの化学的な処理の素材で、ブリュッセルのコンテンポラリーなダンスグループのために、動く服を作りたいという。このコレクションのテーマは「コンタクト」。違ったジャンルのものとの接触という意味だそう。アンケ・ローは73年生れのドイツ人。デュッセルドルフのカレッジで'92年から3年間、クチュールの勉強をした後、'95年から'99年までの4年間をアントワープの王立アカデミーで過ごした。そこでスタイリストとしての資格を獲得。「彼女(SHE)」と題した卒業制作は軽いシルエットだが強い女性を表現したもので、ダンサーのピナ・バウシュからインスパイアされたという。卒業後、9月にはバリのガリエラ美術館主催の若手デザイナー紹介の展覧会に参加。年末の2か月間だけが見習いとしてメゾン・マルタン・マルジェラでも働いた。今年4月、恒例のイェール市における国際モードフェスティバルで婦人服部門のグランプリに輝いている。





# 4th GENERATION

## ANGELO FIGUS

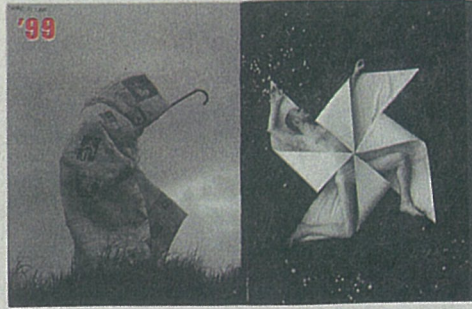
アンジェロ・フィグス

生年：1975 / 卒業年度1999

日本での連絡先 リフト エクリュ TEL 03-5459-0635  
 イタリア・サルディニア島出身。ミラノで建築を学んだ後、アカデミーに入学。高校時代は理系で、コンピューターや理論重視の教育を受け、手作業ばかりのアカデミーに入り少しとまどったという。しかし、ほかの誰もいない自分を発見し、ミシンと人台だけのクリエーションを実感しえた。3年生の時の作品は出身地サルディニアをテーマに巨人の国に迷い込んだ少女を表現。4年生の卒業作品は、羊飼いだっただ祖父をテーマに、風車、不織布、ヨーゼフ・ボイス、100枚のバイヤス生地からできるフォルムなど高度なテクニックと発想で、アカデミー創立以来最高得点を取って卒業。ドリス・ヴァン・ノッテンのサポートにより、その直後のパリ・オートクチュール・コレクション時にデビューショーを行なった。2000-2001AWのオートクチュールを経て、2001SSよりプレタポルテを発表しブランド設立、現在、生産はバドヴァやベニスなどイタリア中心に行ない、靴部門のビジネスは好調。同郷出身でアカデミーのアート科を出たSILVIA SALAKISが公私共のパートナー。



## ANGELO FIGUS



## ANKE LOH

アンケ・ロー

生年：1973 / 卒業年度1999

ドイツ、デュッセルドルフ出身。93年のショーを見て、モード、演劇、ダンスなどの境界線がないことと様々なアートがまざり合ったアカデミーの教育に共感して入学。アンジェロ・フィグスなどと同期で卒業。昨年のエール国際モード・フェスティバルでグランプリを受賞。マルタン・マルジェラで研修。ドリス・ヴァン・ノッテンの紹介によってベルギーのダンスカンパニー、アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルのローザスの舞台衣装「イン・リアル・タイム」2000を手がける。エールの副賞としてパリのプレス、プレッシングがサポートしエキシビションの形で2001SSのパリ・コレクションに参加。体温、光線によって変色し変形する布を使用した衣服をビデオと展示でプレゼンテーションした。2001-2002AWコレクションはポンピドゥーセンターで行ない、ウエストによって分割される衣服を、音によるパフォーマンスで見せた。



## ANKE LOH

